

マネ協だより

第19号 令和8年7月発行

郡上森林マネジメント協議会「第10回通常総会」を6月9日に開催し、28者（うち委任状5者）の会員の出席のもと、令和7年度実績及び令和8年度計画、役員の選任などすべての議案が承認されました。



新会長に樋口享二氏



郡上森林組合代表理事組合長の任期満了（6月25日）に伴い、当協議会の笠野和幸会長が辞任されました。

そのため、第10回通常総会で「役員会に一任」として承認された役員の選任については、7月15日に役員会を開催し、郡上森林組合代表理事専務の樋口享二氏が新たな会長に選任されました。

～令和7年度 事業報告～

1. 主要な事業活動の内容

令和7年度は、森林経営管理事業の受託、川上～川中～川下の連携強化、ICT技術の活用に資する業務、また、新たな手法を用いた森林の集約化モデル地域実証事業等に取り組みました。

協議会の目的である「森林の一元管理」「川上～川中～川下の連携強化」に関する事業としての“郡上地域森林・林業サプライ・チェーン・マネジメント・システム実現プロジェクト”協働会議は、川上部会2回、川中部会1回・川下部会1回の計4回を開催し、連携強化を目指すため、現状の課題等についての意見交換、研修等を実施しました。

森林経営管理事業は、郡上市の実施方針が見直され木材生産を主目的とした地区での取り組みが始まりました。意向調査業務は全8箇所で行われ実績は362ha、前年度の意向調査地の境界明確化業務は9箇所444ha、森林整備に向けた森林施業プラン作成業務は、前年度森林境界明確化を実施した10箇所のうち5箇所140haを実施しました。また、森林経営管理法が改正され、新たな手法による「集約化構想」を作成し森林整備を進める「森林の集約化モデル地域実証事業」を国の補助金（992千円）を活用し八幡町河鹿地区で実施しました。

ICT等技術の活用に関しては、レーザ計測解析データで得られる材積と皆伐地の現地調査で得られた材積、あるいは実際に出材された材積との比較検討を郡上森林組合の協力を得て7箇所で行われ、ICT技術の活用による調査労務の軽減に向けての検討を始めました。

随時受け付けております森林に関する相談窓口、視察研修の受入れ、郡上高校森林環境科学科のインターンシップ受入れにも積極的に取り組み、当初事業計画の、127,470千円に対して130,109千円（102.1%）の実績となりました。

このような実績を上げることが出来たことは、岐阜県、郡上市、会員各位のご指導、ご協力のおかげと感謝申し上げます。次ページから各事業について報告します。

2. 個別事業の概要

①森林経営管理制度に基づく業務

業務名	事業地	備考
森林管理に関する意向調査業務	八幡町安久田、大和町剣、大和町名皿部、白鳥町那留、高鷲町西洞、明宝畑佐、和良町宮地、和良町三庫	実施面積: 362ha 対象人数: 560名
施業プラン作成業務	八幡町相生雛成、八幡町島谷、大和町中神路、白鳥町中津屋、高鷲町大鷲向鷲見	実施面積: 140ha

②森林情報の管理及び共同利用の推進に基づく業務

業務名	業務内容(事業地)	備考
スマート林業推進業務	皆伐予定地におけるレーザー計測解析データの精度検証(大和町栗巣市有林等9箇所にて、出材実績値対比・現地調査費対比)	
	ALAMDIS+Forestシステム操作研修会	開催回数: 2回 参加者数: 25名
	ALAMDIS+Forestシステム保守(操作研修会含)	
	GNSS測量機器及び測量用管理ソフト(Assist8)導入	リース開始日: R6.11.1(5年リース)
	ドローン機器及び3次元データ管理システム(AssistZ)導入	

③森林境界の明確化の推進業務

業務名	事業地または業務内容	備考
森林境界の明確化に関する業務	八幡町向山、八幡町五町イワバ山、八幡町野々倉東洞、大和町大間見打越、大和町大間見江島、白鳥町西前谷、明宝二間手前山、明宝気良上野口、和良町下土京	実施面積: 444ha 対象区画: 655区画
境界明確化事前準備業務	市地域森林管理指導員による境界等聞取調査	全12回 延人数: 13名

④林業・木材産業の需給情報の共有並びに活用の推進業務

業務名	業務内容	備考
郡上地域業務森林・林業SCMS実現プロジェクト	協働会議／川上、川中、川下部会	開催回数: 4回 参加者: 延31名

⑤郡上森林マネジメント協議会の普及啓発の推進業務

業務名	業務内容	備考
マネ協だより発行	年3回(7、11、3月)、各回330部発行、HP掲載	
GUJOプラス掲載	6月号に特集記事及び広告を掲載	

⑥森林に関する相談窓口業務

随時受付対応	2件	
--------	----	--

⑦その他目的達成に必要な業務

業務名	業務内容	備考
森林の集約化モデル地域実証事業	八幡町河鹿地区、99.28ha、所有者15名	国庫補助事業
	所有者説明会開催	R7.9.18、7名参加
	第1回地域協議会開催	R8.2.12、5名参加

3. 収支決算

【収入】

項目	金額(千円)
会費	175
委託事業	112,018
補助金	17,456
雑入	1,659
合計	131,308

【支出】

項目	金額(千円)
受託事業費	103,365
補助事業費	3,333
事務経費	23,411
合計	130,109

繰越金額=1,199千円(収入－支出)
※千円未満四捨五入による

～令和8年度 事業計画～

1. 運営の基本方針

岐阜県は第4期森林づくり基本計画において施策の柱に「災害に強い循環型の森林づくり」、「都市の木造化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大」、「DXの推進による林業・木材産業改革」などを掲げ、針葉樹人工林の針広混交林化の推進、新たな手法による集約化の推進、柔軟かつ迅速に対応する木材サプライ・チェーンの構築などに取り組んでいます。

郡上市では、新たな施業地の集約化による健全で豊かな森林づくりと木材生産量の拡大、川上～川中～川下のサプライ・チェーン構築による林業の成長産業化を目指しています。

本協議会は、郡上市林務行政の円滑な遂行および、専門的な知識と広い視野を備えた人材育成を目的として、協議会職員が市林務課へ出向する協定を令和8年4月に締結し、市、県との連携をより強化し、郡上地域の「森林の一元管理」並びに「川上～川中～川下の連携強化」を推進していきます。

「森林の一元管理」については、県、市、素材生産事業者と協力しながら、新たな集約化手法を活用した施業地の集積・集約化、森林マネジメント支援システム等のICT活用による資源調査の労務軽減等の推進に取り組めます。また、主伐・再造林の効率的かつ確実な実施に向け、事業者間の連携支援、および「郡上森林・林業循環基金」の運営支援を行います。

「川上～川中～川下の連携強化」については、協働会議において、情報の収集・発信、及び意見交換を重ねることで各々が抱える課題の解決に取り組み、森林・林業、木材産業、建築業全体の利益のために木材の効率的・安定的な供給体制の構築を目指します。

郡上の森林・林業・木材産業には人材不足など様々な課題がありますが、「郡上山づくり構想」「郡上市森林整備計画」に基づき、生物多様性の保全を意識しながら持続的かつ健全な林業、木材産業の発展、森林の持つ多面的機能の発揮に向け、関係者各位の意欲と能力と技術力を掛け合わせ、一丸となって課題解決に取り組んでまいります。

2. 個別事業の計画

(1)森林経営管理制度に基づく業務の委託	①森林管理に関する意向調査業務 白鳥町野添アツラ、白鳥町中西外別、白鳥町大島・中津屋、高鷲町大鷲比良曾、美並町大原今倉 計5地区(236ha) ②施業プラン作成業務 八幡町西乙原、八幡町小那比、大和町徳永、和良町下洞、和良町野尻 計5地区(251ha) ③施業プラン作成業務(外縁確定型) 八幡町安久田、大和町剣、大和町名皿部、白鳥町那留、高鷲町西洞、明宝畑佐、和良町宮地、和良町三庫 計8地区(297ha)
(2)森林情報の管理及び共同利用の推進	高精度森林資源情報等の利活用に関する検討 森林マネジメント支援システム運用の検討(事業体等の活用)
(3)森林境界の明確化の推進	外縁の境界確定に関する事前準備 外縁確定事業地の境界等聞取調査(5指導員+精通者) 5地区
(4)森林経営計画の作成及び実行監理支援	森林経営計画作成及び実行監理等に関する事業の検討 ・研修会の開催 ・民間事業体経営計画作成支援
(5)林業・木材産業の需給情報の共有並びに活用の推進	郡上地域林業・木材産業サプライチェーンの構築 ・郡上版SCMS実現プロジェクトの推進 ・情報の収集及び発信(協働会議) ・木材安定供給体制構築に対する検討支援 ・主伐再造林の連携支援 ・バイオマス事業推進(未利用材の利活用等)の支援 ・郡上森林・林業循環基金の運用支援
(6)郡上森林マネジメント協議会の普及啓発の推進	・「マネ協だより」の発行、ホームページの運用 ・各種視察及びインターンシップ受入れ等
(7)森林に関する相談窓口の設置	随時受付・対応
(8)その他目的達成に必要な事業	・森林の集積・集約化実証事業(国庫補助) 八幡町河鹿 ・GNSS、ドローン等ICT技術の活用に関する検討、研修 ・市役所林務行政アドバイザー業務

3. 収支計画

【収入】

項目	金額(千円)
会費	170
委託事業	111,053
補助金	22,621
雑入(繰越金含)	1,201
合計	135,045

【支出】

項目	金額(千円)
受託事業費	107,366
補助事業費	5,203
事務経費	22,476
合計	135,045

針広混交林化施業技術開発モデル事業について

現在の日本では、戦後の拡大造林の影響で針葉樹の単層林が多く、伐期を迎えています。

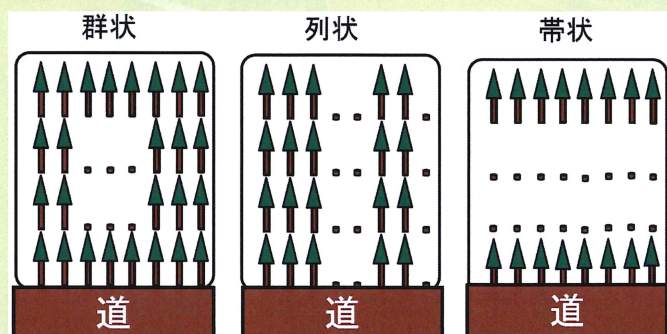
郡上地域では、令和8年4月1日から、第15次長良川地域森林計画書が樹立され、災害に強い循環型の森林づくりを目指して、木材生産を目的とする「木材生産林」と森林の持つ公益的機能の発揮を目的とする「環境保全林」に区分し、それぞれの目的達成のための森林づくりを進めています。

岐阜県では令和7年度から、環境保全林の針広混交林化施業技術開発モデル事業を開始しました。岐阜県内で地形や土壌の異なる5地区を選定し伐採形状等を比較できるように順次、針広混交林化の試験を開始しています。

[県内の事業予定箇所]

樹種	植生	伐採形状	想定箇所	圏域(主な地形・土質)
ヒノキ・スギ	落葉・常緑	帯状	郡上市	中濃(美濃山地・長良川・飛騨川流域、内陸性気候 褐色森林土、赤黄色土)
ヒノキ	落葉	列状・定性	恵那市	東濃(美濃丘陵地・花崗岩主体、比較的温暖、マサ土・褐色森林土)
ヒノキ	落葉	群状・定性	下呂市	飛騨(3000m級山地主体、冷涼・冬季多雪、褐色森林土)
スギ	常緑	(仮)群状	未定	西濃(養老山地・濃尾平野の一部、冬は伊吹おろし、褐色森林土・沖積土)
スギ	常緑	未定	未定	岐阜(長良川扇状地・平野部主体、内陸性気候、扇状地堆積物)

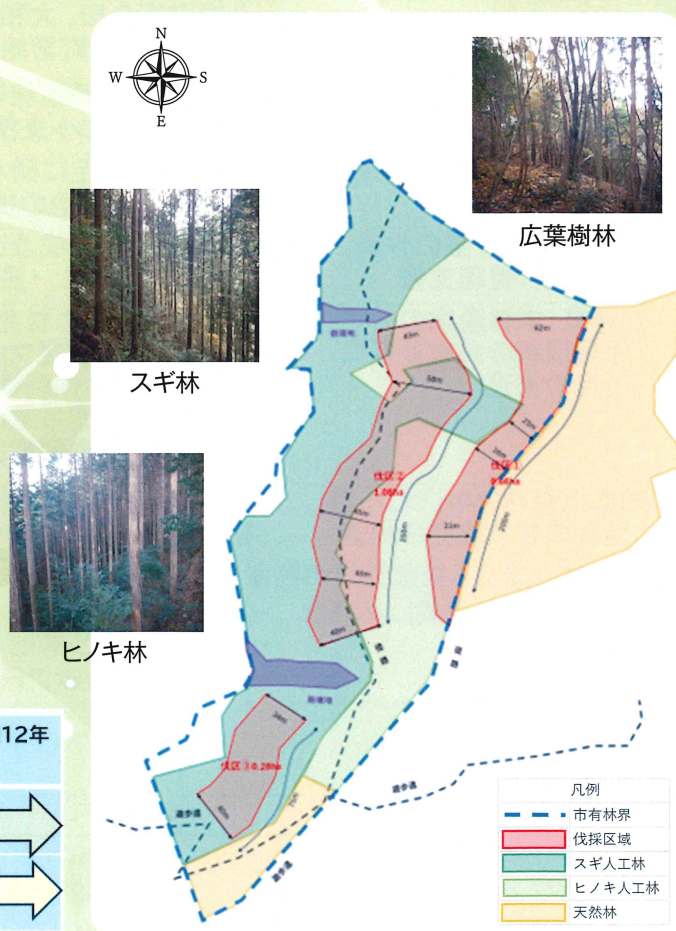
[伐採形状の種類]



郡上管内では、郡上市有林において帯状に伐採し、隣接する広葉樹林からの天然更新を期待しつつ、広葉樹を植栽し維持管理・経過調査を行う予定です。

[スケジュール]

令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年
調査	伐採	シカ対策	経過調査		
		植栽等	維持管理		

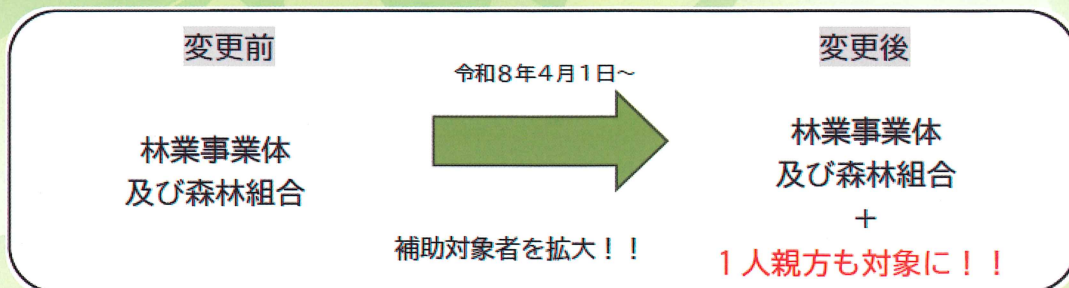


郡上市林業労働安全衛生対策支援事業

令和8年度から補助対象者を拡大！！ 1人親方も対象となります！

郡上市では、林業従事者の労働災害防止と安全意識の向上を目的に「郡上市林業労働安全衛生対策支援事業」を実施しています。令和8年4月1日から補助対象者を下記のとおり拡大し、労働災害の減少を目指しています。

補助対象者



補助内容

- 安全対策装備品等整備支援
防護服等安全対策用具支給等に係る経費の3分の2に林業就業日数に応じた補正率を乗じた額以内の額を支援
- 労働安全意識向上対策支援
労働安全衛生等に関する研修に係る費用の2分の1以内の額を支援。ただし、1事業当たり上限は20万円



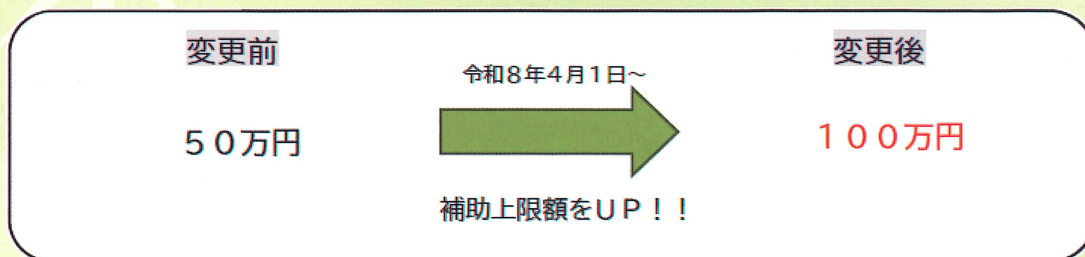
市ホームページ

郡上市森林整備推進作業路整備事業

令和8年度から補助上限額をUP！！ 50万円から100万円へ！

郡上市では、森林整備の推進と木材搬出の効率化を図るため、「郡上市森林整備推進作業路整備事業」を実施しています。令和8年4月1日からは補助上限額を下記のとおり引き上げ、林業事業者による作業路整備をこれまで以上に支援します。

補助上限額



補助内容

- 維持補修、拡幅、作業ポイント新設、倒木除去の実施に要する経費の2分の1以内の額を補助。ただし、1施工地当たりの上限は100万円
- 岐阜県グレードアップ事業活用（補助内容の変更なし）
県補助額に1m当たり1,500円を嵩上げ補助



市ホームページ

詳しい制度内容・申請方法などお問い合わせは、
郡上市役所産業観光部林務課まで TEL:0575-67-2121

ちょっと聞いて! 竹の話

NO.4 主な3種類の竹と見分け方

◆見分け方クイズ◆ 次の3枚の写真のうち淡竹（ハチク）はどれでしょう？

A



B



C



日本に生育している代表的な種は、モウソウチク、マダケ、ハチクの3種類です。

孟宗竹（モウソウチク）

直径は8cmから20cmと太く、国内最大のタケといわれます。

節の環は1本、材質が肉厚で硬く、竹皮は斑点があり、産毛があります。

一般に春にタケノコ掘りを楽しむのはこの種類のもので「春の味覚の王様」といわれています。

真竹（マダケ）

節の環は2本で、節間が長く通直（樹幹の元と末の大きさの差が少なく真っ直ぐな形状）、竹材として弾力性にも富んでいるため、竹細工の工芸品や建築材料など幅広い用途に用いられています。

竹皮は黒い斑点があり、無毛で滑らかなのが特徴。ちまきやおむすびを包んだり、蒸し料理などに使われています。

全国でも唯一、創業90年を迎える国産竹皮専門店が可児市にあります。

淡竹（ハチク）

節の環は2本でマダケに似ていますが、成熟すると灰緑色となるのが特徴で、竹皮は模様なし、耐寒性があります。材質は柔らかく、細かく割りやすいことから茶せんや提灯、簾などに利用されるほか、長良川鵜飼や小瀬鵜飼の鵜籠にも使われています。

近年、竹の花が咲き、一斉に枯れているのはハチクです。

近くに竹林はありませんか？

どの種類の竹か見分けてみてはいかがでしょうか。

竹の皮で見分けるには、幼竹が竹になる頃の5月～6月がおすすめです。

モウソウチクとマダケを見分けるのは、節の数を見ると見分けやすいです。

モウソウチク、マダケ、ハチクの特徴

	モウソウチク	ハチク	マダケ
節の環の数	1本	2本	2本
皮の斑点	有り	無し	有り
太さ	8～20cm	3～10cm	5～15cm
節間の長さ	20～25cm	60～70cm	80～100cm

※見分け方クイズの答え：A（B：マダケ、C：モウソウチク）

発行 郡上森林マネジメント協議会

〒501-4223 岐阜県郡上市八幡町稻成525-7
Tel 0575-67-9533 Fax 0575-67-9633
E-mail: g-management@wind.ocn.ne.jp

会員の皆様からの情報を
お待ちしております！

HP: <https://www.gujo-f-mgmt.com/>

